

# 名古屋外国語大学海外派遣プログラム成果報告書

2026年 03月 23日

学部・学科名 グローバル共生

担当教員氏名 マルソ・エティエン

1. 区分	中期留学 ・ <b>語学研修</b> ・ 海外実習
2. プログラム名称	春期オーストラリア研修
3. 渡航先国名	オーストラリア
4. 派遣期間	2026年02月06日(金) ~ 2026年03月15日(日) 38日間
5. 派遣先教育機関名	グリフィス大学
6. 参加学生数	11名
7. 派遣目的	<ul style="list-style-type: none"><li>-Providing the students with an opportunity to improve their language skills in an English-speaking country through classes at a local university during the first two weeks.</li><li>-Living with an Australian family and experiencing cultural differences first-hand for an entire month.</li><li>-Experiencing work in an Australian company through a work experience program for the last two-and-a-half weeks.</li></ul>
8. 派遣内容	Students took English classes at Griffith University for the first two weeks, followed by a thirteen-day work experience. An excursion to a koala sanctuary taught students about Australia's fauna and local/global environmental issues and added a meaningful yet enjoyable local experience to their trip. As a result, students seem to have become much more active and willing to communicate in English. Most conversations

	<p>between the students and me took place in English, at the students' initiative. Many students talked to each other in English, a remarkable improvement. The internship provided them with a meaningful work experience in a foreign country with different ways of working. It also was an opportunity to deepen their understanding of diversity such as gender, cultural background, religion, etc. Students attended a presentation given by a successful Japanese business owner in Australia, who explained business and cultural differences between Japan and Australia. It brought students to reflect deeply and share their own views. Lastly, students reflected about their experiences and shared with others through presentations. This whole experience will surely prove beneficial in their development as global human resources.</p>
9. 成果	<p>Students developed their language skills, willingness to communicate, autonomy, intercultural understanding, camaraderie, they became more active, reflected deeply about themselves, Japan, and their future.</p>
10. 備考	

以上

# 2025年度グローバル共生学科春期オーストラリア研修 成果報告書

2026年3月18日

## ・現地で感じたこと

約一か月間の研修を経て、英語力の向上だけでなく、他にも多くの経験と学びを得ることができました。初めは、これまでとは違う環境に慣れるまでとても努力しました。バス一つにしても、日本とは違い、手を挙げてバスを呼び止め、またバス内では停車駅のアナウンスが流れません。目的地にたどり着くまで、まだ馴染みのない外の景色を見ながら降車ボタンを押すという、日本とオーストラリアの違いを感じながら日々過ごしました。また反対に、日本とオーストラリアの違いについて好感を持てる面も多くありました。例えば、オーストラリア（ブリスベン）には、至る所にゴミ箱があり、その効果なのかポイ捨てをあまり見かけませんでした。そして必ず普通のゴミ箱と一緒に、リサイクル用のゴミ箱が設置されているのを見て、環境への配慮を感じました。そしてもう一つが、小さな子供からお年寄りまで、元気よく挨拶をするところです。バスから降りるとき、道ですれ違った時、お店で注文を行う時、さまざまな場面で人々が元気よく挨拶を交わしている姿はとても好印象でした。

## ・ホームステイでの生活

宿泊はホームステイで、一つの家で友達と二人で滞在しました。初めは、生活スタイルの違いに慣れるのに苦労しました。食事（内容・時間）、洗濯（時間・頻度）、洗い物（頻度）、お風呂（所要時間）、冷房器具、様々な点で、日本で過ごしていた時とは異なりました。場合によっては、ホストのルールに違和感を覚える場面やストレスを感じる日々も多々ありました。しかし、だんだんと適応できるようになり、研修終了時には当たり前前の生活と化していました。この経験は、やればできるという自信に大きく繋がりました。また、ステイ先には16歳のホストシスターがいたため、夕食の際に彼女と会話をする時間がとても楽しく、日常会話の練習にもなりました。帰国の日には、ホストファミリーとハグをしてお別れをすることが出来ました。

## ・ワークエクスペリエンス

ワークエクスペリエンスでは、二店舗の飲食店で働く経験をする事が出来ました。行った仕事は、レジ、料理の準備・配膳、テーブルや床の掃除、食器洗いなど、日本の一般的な飲食店と同様の内容でどれもシンプルでした。しかし初めは、ネイティブの話す英語の理解に

とても苦労しました。なので分からないときは素直に聞き、他のスタッフにサポートしてもらいながら励みました。働き始めた当初は、受け身な姿勢で指示を待ち、言われたことだけに取り組んでいましたが、徐々に主体的に動けるようになり、自ら仕事を探したり、積極的にお客様と会話をすることができるようになりました。その結果、何人かのお客様が私の事を覚えて声をかけてくださったり、友達を作ることが出来たり、キッチンのスタッフに自分の労働を感謝されたりと、とても嬉しかったのを鮮明に覚えています。何かを得るためには、自分から行動していかなければいけないという事を改めて痛感する機会になりました。

#### ・まとめ

私はこれまで「留学」と聞くと、どこか語学の勉強のイメージが強かったり、海外というキラキラとした楽しさを思い浮かべていました。しかし、実際に研修を経て、「留学」とは語学以上のことを学ぶ機会であると同時に、安易なものではないと実感しました。環境の違い（気候や天気）、文化の違い（生活スタイルやルール）、価値観の違い（多国籍国家、自由）、を良い面も悪い面も含めて、自分の目で見て身体で感じ、学ぶことができる経験であったと思っています。ここで得た経験は、今後のキャリアを考える上、そして自分自身の生き方考える上で、大いに活用していきたいと思っています。

# 2025年度グローバル共生学科春期オーストラリア研修 成果報告書

2026年3月31日

私が本研修を通して学んだことは、大きく分けて三つあります。

一つ目は、適応能力の重要性です。今回の一ヶ月半にわたるホームステイでは、他人の家庭に家族の一員として生活するという貴重な経験をしました。日々の生活の中で、文化や生活習慣の違いに戸惑う場面も多くありました。もちろん楽しいことも多くありましたが、自分の思い通りにいかないことや、遠慮や気遣いが必要な場面もあり、決して簡単なものではありませんでした。しかし、そのような環境の中で相手の価値観を理解し、自分自身の行動を柔軟に変化させていくことで、異なる環境に適応する力を身につけることができたと感じています。

二つ目は、自身の英語力、特に実践的なコミュニケーション能力の課題です。本研修前の事前学習では、スピーキングを中心に、オーストラリアのスラングや文化について学びました。そのため、授業内での英語は比較的聞き取りやすく、自信を持つことができました。しかし、現地の人々との実際の会話は想像以上に難しく、特にワークエクスペリエンス先の上司の英語は話すスピードが速く、アクセントも強かったため、何度も聞き返す場面がありました。この経験を通して、自分の英語力がまだ実践的な場面では十分ではないことを実感し、今後さらに向上させる必要性を強く感じました。

三つ目は、授業で学ぶ英語と実用的な英語との違いです。大学ではディベートやクリティカルシンキングなど、論理的な英語を学ぶ機会が多くありますが、それらが必ずしも日常会話に直結するとは限らないと感じました。現地では、ホストファミリーや職場の方々を使う自然な相槌やイディオムを実際に耳にし、それらを積極的に取り入れることの重要性を学びました。このような「生きた英語」に触れることで、より実用的なコミュニケーション能力の必要性を強く実感しました。

本研修を通して、これらの重要な学びを得ることができ、英語学習への意欲が大きく向上しました。また、来年度に予定しているワーキングホリデーに向けてのモチベーションも高ま

りました。初めての海外生活で不安や緊張もありましたが、日本人の友人と協力し支え合うことで、精神的にも安心して過ごすことができました。

この研修は、私にとって大きな成長の機会となりました。英語力の向上だけでなく、異文化理解や生活力の面でも多くのことを学ぶことができました。今回の経験を今後の学習や生活に活かし、来年度のワーキングホリデーに向けて引き続き努力していきたいと考えています。

# 2025年度グローバル共生学科春期オーストラリア研修

## 成果報告書

2026年3月31日

私は、2月6日～3月15日まで春季オーストラリア研修に参加した。研修について、グリフィス大学での授業、ワークエクスペリエンス、ホームステイに分けて書こうと思う。

グリフィス大学では、ブリスベンの有名なスポットやオーストラリアの文化を学んだり、ワークエクスペリエンスのための履歴書づくりや受け入れ先へのメールの書き方について教えてもらったりした。また、オーストラリアに住む日本人の方からお話を聞いたり、日本にルーツがある生徒、日本から留学をしに来た生徒と交流をしたりした。いままで、海外に暮らすことをあまりイメージしたことがなかったが、お話のなかで「オーストラリアには日本より時間と空間がある。」ということを知ったり、実際に約1カ月オーストラリアで生活をするなかで人々の余裕や寛大さを感じたりするなかで、海外で生活することに興味を持つようになった。

次に、ワークエクスペリエンスで私は語学学校で働いた。基本的には受付に立ち、生徒の相談を受けたり、新入生や卒業生のための準備をしたりした。時々、授業やアクティビティに参加し、営業のマテリアルとして参加した感想をパワーポイントにまとめることも行った。この語学学校は、生徒もスタッフも様々な国から来ていたため、交流するなかで相手の文化や国について知ることができ、また日本についても知ってもらうことができた。そして、働くなかで、英語以外の能力も重要だと感じた。パワーポイントでまとめる際には、決められた時間のなかで作成するために、早いタイピングスキルやショートカットキーを知ることが必要だった。また、受付で日本人の生徒から相談を受けた際に生徒が英語で理解できていない場合は、日本語を使って説明を行った。日本に暮らしていると、日本語を話せることが特別な能力だと感じることはなかったけれど、日本語が話せることが役に立つということを実感した。

最後に、ホームステイでは、フィリピン出身の家族のもとで暮らした。ホストファミリーはよくフィリピン料理を作ってくれたり、親戚のパーティーに連れて行ってくれたりすることもあり、フィリピンの文化について知ることができ、オーストラリアの多文化社会を実感した。また、夕食を一緒に食べるが多く、休日もビーチやショッピングに連れて行ってくれた。そのなかで、今日あった出来事について話したり、日本とフィリピンについて話したりし、英語でのコミュニケーションに自信を持つことができるようになった。

この研修を通して、自分が伸ばしたいと思っていた英語力を伸ばすことができたと感じる。特に伸ばしたいと思っていたスピーキング能力は、どの場面でも積極的に話すことで、自信を持って話せるくらいになった。また、様々な人に出会うことは大切だと思った。いままで自分が持っていたイメージを変えることができたり、自分も何かに挑戦してみようと思えたりするからだ。この研修で学んだことをここで終わらせず、日々の生活や大学での学びに活かしていきたい。